

## 決 議

先の参議院議員選挙において、年金問題や格差社会拡大をもたらした自民党は大敗を喫した。にもかかわらず続投する安倍首相は、国民の声を受け入れて財政至上主義からの方向転換を目指すのか、それとも小手先の手直しで済ませるのか、この国の向かう先は明確ではない。

現在、推し進められている公的医療費抑制を目的とする自己負担増や療養病床の削減、混合診療の導入などは、まさに医療における格差拡大の象徴である。

このような、国民の健康に生きる権利を踏みにじる医療制度改革の即時中止と、真に国民のための医療提供体制を構築することこそが、今回の国民審判に対する安倍政権の真摯な対応といえよう。

我々は、国民が望む格差のない良質な医療を受けられる医療制度を守り、発展させていく責務を果たすべく、左記の事項を強く要求する。

### 記

- 一、際限なく増え続ける患者負担をこれ以上容認しない。
- 一、介護難民、医療難民を生む機械的な療養病床の削減に強く反対する。
- 一、格差医療そのものである混合診療の全面解禁を断固阻止する。
- 一、利益追求を最優先する株式会社の医業経営参入を断固阻止する。
- 一、良質で安全な医療提供のために、必要な財源確保を強く求める。

右、決議する。

平成十九年九月八日

第一〇三回 札幌市医師会定時代議員会